

桑木藏^{ひらき}眞^{まこと} 哲學者、文學博士。明治七年八月二十五日東京生れ、
昭和二十一年十一月十五日歿（一八七〇—一九四六）。號空王甕子。明治二十九年帝國大學文科大學哲學科卒。二十二年第一高等學校教授、二十九年京都帝大教授、翌年歐洲留學、大正三年東京帝大教授、昭和二十一年貴族院議員。科學史學者桑木或雄^{いくさき}の兄、陸軍中將桑木崇明^{たかあきら}は從弟、歌人小金井素子は長女。

著譯書「チエ氏倫理說一斑」（明治三十五年八月十五日成會「續倫理學書解説」）、エンゲルバインド著「哲學史要」抄譯、明治二十五年十月十四日早稻田大學出版部「早稻田叢書」）、ドロージンエ著

「論理學綱要」（關山富其抄譯、明治二十五年十一月十四日早稻田大學出版部「早稻田叢書」）、コデカルト（明治二十七年四月二十日富

山房「世居哲學文庫」）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

「現代思潮十講」（天野貞祐筆記、大正二年六月一日弘道文館）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

「現代思潮十講」（天野貞祐筆記、大正二年六月一日弘道文館）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

「現代思潮十講」（天野貞祐筆記、大正二年六月一日弘道文館）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

「現代思潮十講」（天野貞祐筆記、大正二年六月一日弘道文館）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

「現代思潮十講」（天野貞祐筆記、大正二年六月一日弘道文館）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

「現代思潮十講」（天野貞祐筆記、大正二年六月一日弘道文館）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）、^中「^史研究會講演集・第二冊」（合著、明治四十三年九月四日富山房）

- 四年)二月、二十日岩波書店)、『科學に於ける哲學的方法』(大正十四年五月十日岩波書店、「科學普及叢書」)、イスマエル・カント著「プロレゴーマナ」(天野貞祐共譯、大正十五年十一月一日岩波書店、「カント著作集」、再刊・昭和二年十月一日「岩波文庫」)、コフイヒテ知識學』(昭和十年六月五日岩波文庫、「大思想文庫」)、『哲學及哲學史研究』(昭和十一年二月十日岩波書店)、『哲學と文學との間』(昭和十一年四月二十一日大日本圖書株式會社、「大日本圖書」)、コプラトンの講話』(昭和十二年四月十五日春秋社)、『白濁文化講演集・第十一輯』(合著、昭和十二年五月二十日白濁文化協會)、^{ゲインデ}ハインデ^{ハイムゼ}ト著、^{増訂}『哲學史要』(譯、昭和十四年二月二十日富山房、「富山房百科文庫」)、『書・人・旅』(昭和十四年四月二十日理想社出版部)、『讀書餘錄』(昭和十五年二月十日河出書房)、『世間の白一新論』(昭和十五年五月二十日日本放送出版協會「ラヂオ新書」)、『能謠一家言』(昭和十七年七月二十日春秋社松栢館、「春秋社能樂叢書」)、『明治の哲學界』(國民學術協會編、昭和十八年二月二十日中央公論社、「國民學術選書」)、『哲學史簡記』(昭和十八年四月二十日小山書店)、『自由と文化』(昭和二十一年八月五日神奈川・白濁書房)、『書物と世間』(昭和二十一年十一月二十日南北書園)、『讀書の心―學園隨想』(合著・帝國大學新聞社編輯部編、昭和二十一年二月十日帝國大學新聞社出版部)、『哲學四十年』(昭和二十二年十月二十日岩波書店)等。